



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

町田多摩境雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【 異文化交流 】

設定した理由・背景

多様性が主流な今の時代、保育園の中でも多様な国の園児がいる。様々な国の言葉や文化、食事等に子どもたちが興味・関心を持ち、探究する事で子どもたちの世界観を広げたいと考えた。

用意した環境設定

- ・外国人講師によるオンラインレッスン
- ・プロジェクター一式
- ・スクリーン・ノートパソコン・動物の写真
- ・画用紙・クレヨン・絵の具

活動のあゆみ

- ・1月：外国人講師との英会話レッスンを通して異文化について知る。
- ・2月：講師の住んでいるフィリピンについて知りたいことや聞いてみたい事を話し合う。
- ・3月：講師に対し、日本の動物の紹介を英語で知りたいことや聞いてみたい事を話し合う。

✿探究活動の実績✿

保育園の中にも多様な国の園児がいることから、日本とは違う国に興味を持っている園児が多かった。そこで、外国人講師との交流の場として、オンラインレッスンを設定した。外国人講師との英会話レッスンを進めていく中で、言葉以外にも日本とフィリピンには違いがある事に、子どもたちが興味を持ち始めた。(※外国人講師がフィリピンに住んでいる。)保育士の「日本とフィリピンにはどのような違いがある？」という問いかけから、異文化についての探究活動を始めた。

英会話レッスンの中で、動物の名前やイラストを使用してレッスンを受けていた事もあり、「フィリピンと日本の動物は同じなのかな？」「フィリピンにはどのような動物がいるのだろう？」という声が子どもたちから挙がった。「講師に日本の動物も紹介したい。」という意見もあり、画用紙にクレヨンや絵の具でニホンザルの絵を描いて、特徴を英語で伝える練習も行った。反対に、講師からフィリピンの動物の動画や写真を見せてもらい、「見たことない。」「やっぱり日本にはいない動物だ。」と発見を共有する姿が見られた。また、「何を食べているんだろう。」「足は速いのかな。」「背中に乗れるのかな。」という新たな疑問も生まれていた。講師との会話は全て英語であったが、動物の特徴もしっかりと理解し、講師とコミュニケーションを取りながら探究活動を進めていた。



外国人講師とオンラインにて英語でコミュニケーションをとる様子。



外国人講師に、日本の動物であるニホンザルを英語とジェスチャーで伝える様子。

まとめ

英語の絵本を見たり、友達が英語を話すという環境の中で、子ども達は英会話レッスンの時間をとても楽しみにしている姿があった。その中で、言葉が違う難しさや面白さを感じると共に、言葉以外の違いにも興味を持つようになっていた。今回は動物をテーマを設定したが、活動を行う中で、子どもたちの中から「もっといろんなことが知りたい。」という気持ちが溢れていた。自分は気付かなかった事も、友達の発言によって知る事が出来、一人ではなく友だちと一緒に活動する喜びを感じる事ができた期間であった。保育士は、園児の伝えたいことをくみ取り、外国人講師や、周りの友だちへ伝えるなどして、活動に携わった。また「どんな違いがあるかな？」などの問い掛けを行い、園児の発見を促した。子どもたちの中に次々と湧いて出てくる探究心を、私たち保育士が大切に受け止め、来年度の活動に反映していきたい。